

# 校長だより

## ～教頭先生の意地～

平成25年1月7日  
校長 與那覇 健勇

「みなさん、はげましておめでとうございます」三学期最初の職員朝会。司会である本校随一のイケメン仲松先生の第一声。場内騒然。坊主頭になっている。禿げている。髪がない。どうなったの?・・・驚きと、歓声と、どよめきの中、三学期が始まりました。

昨年の暮れに高江洲教頭（沖縄県元大学バドミントンチャンピオン）に、バドミントン部の顧問でもある、伸長著しい仲松教諭が差しで勝負を挑んだのだが1対1のまま時間切れで決着がつかず、年明けまで持ち越し、1月4日午後5時30分本校体育館で決戦の日を迎えていたのです。

決戦の日「インターハイの『決勝戦』のつもりで戦います。この日のためにすべてを賭けてきました」仲松教諭の弁。方や、教頭は年末・年始から飲み疲れ顔色が悪い。おまけに風邪気味である。勝つとも負けるとも言わない。

第1ゲーム。どちらも相譲らず、コートいっぱいの素早い動きと見事なコーナーワーク・フットワークで一步も引かない見応えのあるシーソーゲーム。50代とは思えない教頭の動きにも徐々に疲れが見え始めたのか、放つドロップが僅かにネットに阻まれなかなか決まらない。このゲーム仲松の勢いと若さとピュアな精神で21対15と教頭を圧倒した。ここで勝負は見えた。と誰もが思った。仲松の勝。だがあまり大差は付けたいと皆が教頭の応援に回った。

1分間のインターバルの後、第2ゲーム。第1ゲームの勢いで始まるも、途中から顔面蒼白ながら、教頭の3連続ジャンピングスマッシュが出始め、ポイントを上げる場面が続く。あの歳で飛べる。凄い。第二ゲーム。序盤はリードした仲松も第3打のスマッシュは返せず教頭がこのゲームを取った。残されたのはあと1ゲーム。

2分間のインターバルの後、ファイナルゲーム。今度は黄色い声援が仲松に飛ぶ。シュ・ウ・サ・ク・・・シュ・ウ・サ・ク・・・声援もむなしく教頭が勝利し、彼が持つ国体のユニフォームは仲松の手には渡らず、代わりに仲松は髪に見放されたのです。

「人は知らず知らずのうちに、最良の人生を選択しながら生きている」という小山薫堂さんの父親の言葉。今年も読谷高校の生徒と先生方が最良な人生を選択しながら生きられるようにと年の初めに祈念します。今年の一文字は『躍』 ～足にまで羽が生えて進め～ と。